

埼玉県茶業研究所

防霜ファンはいつ稼働させる？

調査期間：R7～8年度



埼玉県マスコット
「コバトン」

R7,8年度調査のまとめ

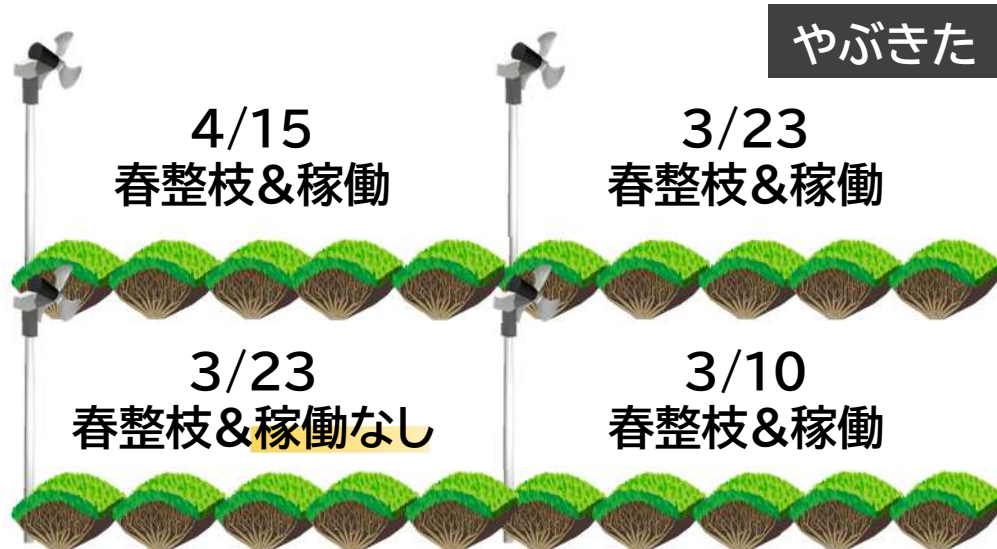
‘やぶきた’において**防霜ファン稼働の早晩**で
一番茶芽の生育などに**大きな差はありません**でした

電気代の観点から(‘やぶきた’では)4月に入ってから稼働の方が
経営的に優れるかもしれません

ただし 調査した2か年とも大きな低温遭遇(凍霜害)がなかったため 実害の部分が
判断できていません そのため **現段階で推奨するものではありません**
この課題は今後 **複数年かけて詳細に調査いたします**

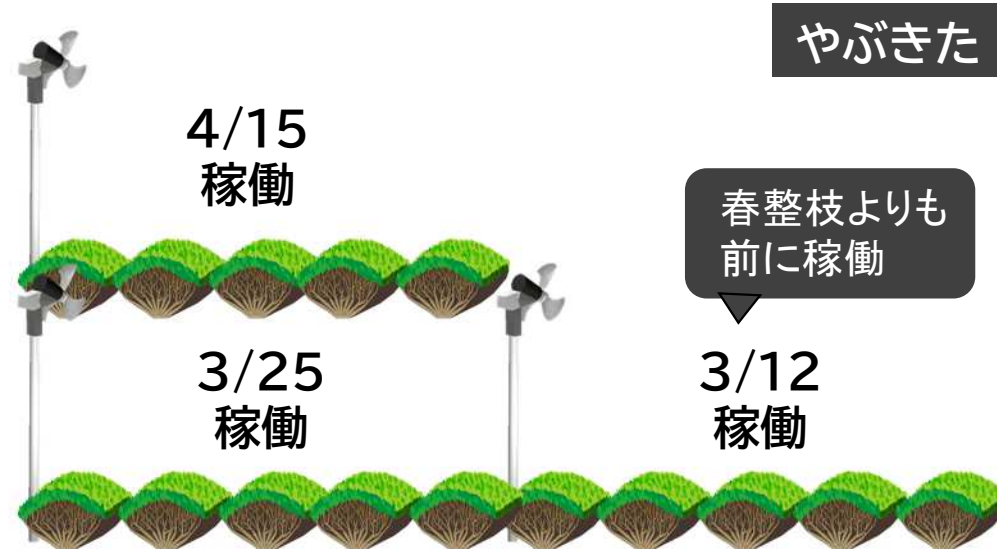
栽培方法と検証内容

R7年度 春整枝とファンの稼働を同日



R7年度 成果発表時の
ご意見を踏まえ方法を変更

R8年度 春整枝はすべて3/25



電気代など茶生産に係る経費が増えているので 高級茶生産の茶園と一般茶生産の茶園で
管理の考え方を分けて 経営面で効果的な茶生産を行いたい

春整枝後は芽が小さい→ファンを稼働させる必要はあるのか
ファンを早く稼働させると生育が早まるという話も聞くが実際はどうなのだろうか

結 果

R7年度

R7年 成果発表の振り返り

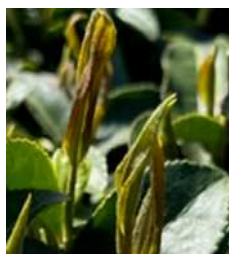


昨年の結果の結論

- ①生育速度に差はなかった
- ②芽を外見で判断した限り 処理区間に差はなかった

R8年度

遅く稼働させることにより 凍霜害が助長される可能性があります
→より厳密に評価するため 九州大学で被害芽の観察手法を習得しました



凍霜害を外見で
視認する前に
被害程度を判別

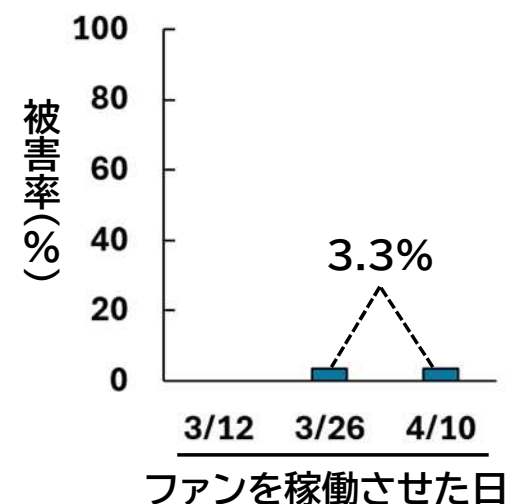


縦に細かく
切断

芽の
内部組織
(黒→損傷)



この手法で算出した被害率の
結果(4/17に実測)



今年の結果の結論

- ①生育に差はなかった(データ省略)
- ②今年は目立った低温遭遇がなく 実害を判断するに至らなかった